191

持躰松遺跡（もったいまつ）

（日置郡金峰町宮崎）

位置と環境

南薩地域を横断し，東シナ海に注ぐ万之瀬川は下流域の加世田市と金峰町付近で大きく蛇行している。本遺跡は，万之瀬川下流右岸で，標高約４ｍの自然堤防上に立地している。遺跡は，現河口からは約5.4㎞にある。現河口は，1802（享和２）年の大洪水によって形成されたもので，かつては加世田市畦杭あたりから南流し，同市小松原付近に河口があった。

万之瀬川下流域には，柳原敏昭などが指摘するように「唐人原」，「唐坊」など中国とのかかわりを示すような古くからの地名がある。

調査の経緯

遺跡は，平成５年度に中小河川改修事業（万之瀬川）に伴い，金峰町教育委員会が分布調査を行った。その結果，遺跡が発見された。これを受けて，平成６年に金峰町教育委員会によって確認調査が実施され，遺物包含層の存在が判明した。事業の進展に伴い，築堤部の発掘調査が開始された。平成８年度は金峰町教育委員会が調査主体となり，県教育委員会と加世田市教育委員会の協力を得て本調査を実施した。平成９年度から11年度は県教育委員会によって調査を実施し，調査対象面積は7,000㎡である。事業は継続中である。

遺構と遺物

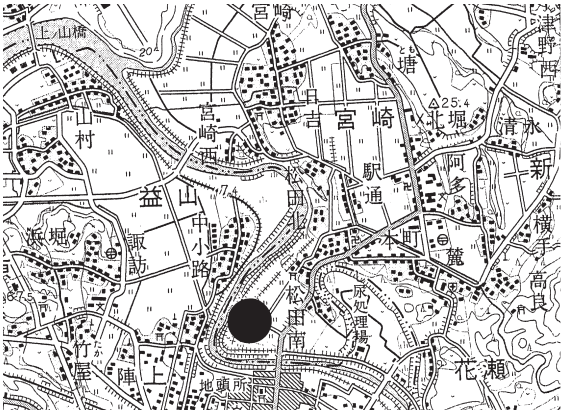
遺跡は，縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡である。

縄文時代晩期は，黒川式土器，石鏃が出土した。

弥生時代中期は，竪穴住居跡４軒，溝状遺構，土坑などが検出され，土器片や石鏃が出土した。

古墳時代は，砂層によって２期に分かれ，前期（４世紀頃）では竪穴住居跡１軒や断面がＶ字形をした溝状遺構，土器溜りが検出された。竪穴住居跡からはガラス玉が１点出土した。また，土器溜りからは線刻を施された壺形土器が出土している。後期（６世紀頃）では，溝状遺構や土坑が検出された。

古代は，掘立柱建物跡５棟，土坑，畠跡，柵跡，



第１図　持躰松遺跡の位置

溝状遺構が検出され，土師器，須恵器，墨書・刻書土器，黒色土器，赤色土器が出土した。

中世前期では，土坑が1000基以上検出され，そのほかに掘立柱建物跡２棟，方形竪穴建物跡１基，土壙２基，溝状遺構，炉跡が発見された。遺物は，在地産土師器のほか，12世紀～14世紀前半の輸入陶磁器や国内各地の土器・陶器等が多量に出土した。輸入陶磁器の種類は，中国陶器－四耳壺・甕・水注・盤・鉢，白磁－四耳壺・碗・皿，竜泉窯系青磁－碗・皿・坏，同安窯系青磁－碗・皿，特殊なもの－磁州窯系製品の瓶・碗，福建省産緑釉陶器壺，青白磁碗・合子などがある。日本各地から運ばれてきた焼き物などには常滑焼，備前焼，東播磨系須恵器，畿内型瓦器椀（楠葉型，和泉型），滑石製石鍋，亀山・樺番丈系須恵器，カムィヤキなどがある。そのほかに，砥石，石硯，鉄製品，鉄滓，鞴羽口なども出土した。

中世後期は，畠跡とその境界と思われる石列が検出され，畠上面から染付，白磁などが出土した。染付から16世紀後半以降の遺構と考えられる。

特徴

中世前期の本遺跡の性格については，調査当初から文献史学の分野から積極的にアプローチされている。しかしながら，整理作業の途上にある現時点では遺跡の評価はできない。また，渡畑遺跡や芝原遺跡など万之瀬川下流域の遺跡との比較の上で検証していく必要がある。ここでは出土状況等の事実から本遺跡の特徴を指摘したい。

住の遺構は掘立柱建物跡２棟と方形竪穴建物跡１

基のみである。土壙は白磁碗などを副葬するものと土師器を副葬するものがあった。また，地鎮と考えられる土師器集積遺構が3か所ある。また，遺跡を縦横に走る溝状遺構や土坑群などもあり，それぞれの年代観を含め，遺構の相関関係を検討する必要がある。

出土遺物は，椀・皿などの食膳具が多いこと，さらに壺・甕など貯蔵具が比較的多量に出土していることが指摘されている。壺・甕はその内容物が搬入品としての価値があるとされる。本遺跡での食器組成の把握が必要である。

次に，畿内型瓦器椀は，畿内では中世の一般的な椀形態であるが，鹿児島では瓦器椀そのものが生産されておらず,ここではじめて出土が確認された。本遺跡において楠葉型は掘立柱建物跡周辺で出土し，和泉型は方形竪穴建物跡周辺で出土している。なお，この瓦器椀搬入の背景については，特に楠葉型は摂関家に関連する遺跡で出土するともいわれており注目される。

資料の所在

平成6，8年度の金峰町教育委員会調査出土品は金峰町教育委員会に保管されている。また，平成9年度以降のものは，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

金峰町教育委員会1998「持躰松遺跡」『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』(10)

金峰町歴史シンポジウム実行委員会事務局編『金峰町歴史シンポジウム　万之瀬川から見える日本・東アジアー阿多忠景と海の道ー資料集』2000

中村和美・栗林文夫「持躰松遺跡（2次調査以降），芝原遺跡･渡畑遺跡について」『古代文化55-2』2003

（中村和美）

写真1　持躰松・渡畑・芝原遺跡

写真2　中世前期の遺構

写真3　中世の方形竪穴建物跡

写真4　中世（左）と古代の大溝

写真 5　竜泉窯系青磁碗

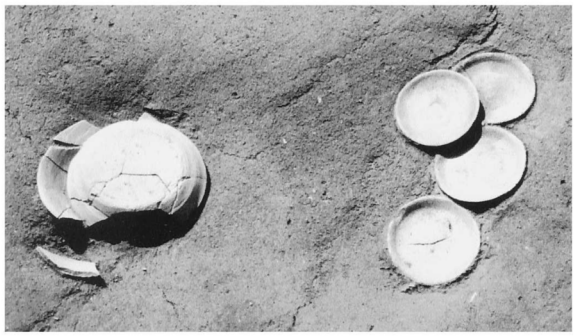


写真 6　土師器の集積遺構

写真 7　石硯

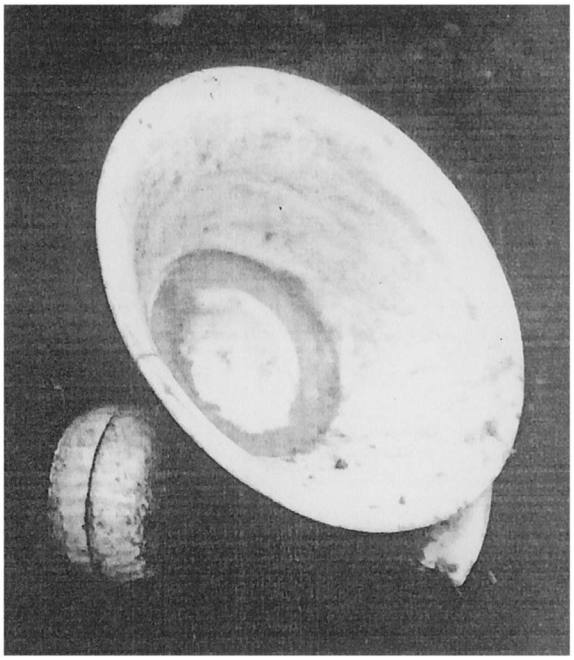


写真 8　土壙の副葬品・白磁碗と青白磁合子

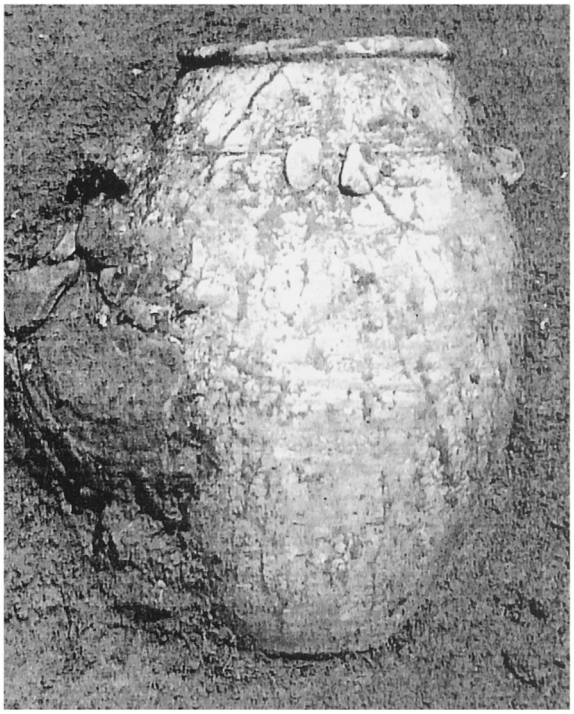


写真 9　中国陶器四耳壺